

はじめに

2026 年 6 月 27 日、北九州国際会議場（北九州市）にて「第 63 回化学関連支部合同九州大会」が「第 37 回産学交流ユースフォーラム」と併せて開催されました。参加した学協会は、日本化学会九州支部のほか、日本分析化学会、高分子学会、繊維学会、化学工学会、電気化学会、有機合成化学協会、日本農芸化学会の合計 8 学協会の各支部であり、化学を共通の軸とする広範な分野の研究者が一堂に会し、活発な交流が図られた充実した大会となりました。

大会概要

主に九州地域から集まった産学官の研究者により、各学協会支部が担当する 8 分野 6 セッション（電気化学、分析化学、生物化学・農芸化学、無機化学、物理化学、有機化学、化学工学、高分子・繊維）の研究発表（依頼講演、ポスター発表）が行われました。

依頼講演、一般講演（ポスター発表）

各関連学協会から推薦された 8 件の依頼講演が行われました。日本化学会九州支部からは福原学教授（九州大学）による「近未来の予防医療に資する光機能性ソフトマテリアルの創製」と題した依頼



講演が行われました。

ポスター発表の総数は昨年より増加し、644 件に及びました。学生にとっても参加しやすく、初めての学会発表の場として利用しやすいため、発表の中心は、高専、大学、大学院の学生でした。各セッションに割り当てられた 1 時間を有効に使って、分野を超えて活発な議論が繰り広げられました。

また、無機化学、物理化学（102 件）の分野の審査を担当し、特に優れた学生ポスター発表に対して若手研究者奨励賞（14 件）を授与しました。受賞者には賞状が贈られました。

産学交流ユースフォーラム

例年どおり、本大会と並行して第 37 回産学交流ユースフォーラムが開催されました。化学関連企業 10 社（旭化成株式会社、MHI ソリューションテクノロジー株式会社、クラサケミカル株式会社、JNC 株式会社、住友化学株式会社、デンカ株式会社、日鉄ケミカル&マ

テリアル株式会社、三井化学株式会社、三菱ケミカル株式会社、東ソー株式会社）が展示ブースを設置し、産業界と学生、研究者の間に活発な交流が行われました。とりわけ就職活動を意識する学生は、展示物を前に企業担当者の話に真剣に聞き入っていました。実施後のアンケートでは、自身の研究に即した仕事の紹介や、研究員として働く方の生の声に触れられた点が評価されました。また、ウェブサイトだけではわかりにくい情報を得られたことや、大規模な説明会では聞けない話しができたことなど、企業と近い距離感で交流できる本フォーラムならではの利点を挙げる声が多く寄せられました。

おわりに

台風 7 号の接近による影響が懸念されたものの、当日は天候にも恵まれ、無事に開催する運びとなりました。会場内は参加者の活気と熱気に包まれ、終始盛況のうちに大変充実した一日を終えることができました。第 64 回も来年同時期の開催が予定されております。次回も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

〔2026 年度九州支部幹事 山本英治
（九州大学大学院理学研究院化学部門）〕

© 2026 The Chemical Society of Japan